

第2回 社会教育委員会議 議事概要

1 議事

(1) 協議事項

サッポロサタデースクール事業令和3年度実施状況及び令和4年度実施方針案について

(2) 報告事項

第3次札幌市生涯学習推進構想の令和2年度実施状況について

(3) 事業説明

① 社会教育事業

ア 学校図書館地域開放事業

イ 家庭教育事業

② 野外教育事業

ア 林間学校事業

イ なかよしキャンプ事業

2 日時

令和4年(2022年)1月28日(金)10時00分～12時00分

3 場所

S T V北2条ビル6階 教育委員会A・B会議室

4 出席者

(1) 委員(出席10名)

鈴木委員、中野委員、本間委員、高橋委員

オンライン参加：出口委員、臼井委員、一戸委員、安田委員、榊委員、出葉委員

(2) 事務局(13名)

丹尾生涯学習部長、村上生涯学習推進課長、小柳生涯学習係長、逸見推進担当係長、寺崎社会教育担当係長、田村野外教育担当係長、渡辺職員、菊川職員、前崎職員、中原職員、佐藤職員、国奥職員、横山職員

5 開催形態

公開(マスコミ関係者1名傍聴：北海道通信社1名)

6 会議内容

(1) 配布資料

資料 1-1：サッポロサタデースクール事業令和 3 年度実施状況

資料 1-2：サッポロサタデースクール事業令和 4 年度実施方針案

資料 1-3：サタデースクール通信

資料 2-1：第 3 次札幌市生涯学習推進構想 令和 2 年度実施報告

資料 2-2：関連事業実施状況

資料 3-1：学校図書館地域開放事業について

資料 3-2：家庭教育事業について

資料 4-1：林間学校事業について

別紙 1：令和 3 年度冬季林間学校

別紙 2：冬の体験フェス

資料 4-2：なかよしキャンプ事業

(2) 会議の趣旨について説明

今期の協議テーマについては、前回会議において、人生 100 年時代の生涯学習という大きなテーマの中から、各世代における生涯学習の在り方について議論することが決まった。そこで、議論に先立ち、札幌市における生涯学習関連事業について、知っていただくため、本日は事業説明の場を設けさせていただいた。今後、議論を進める上での参考としていただきたい。（村上課長）

(3) 協議事項

① サッポロサタデースクール事業について

ア 事務局から資料 1-1 及び 1-2 の資料を用いて説明。（寺崎係長）

参考資料：サタデースクール通信

以下、説明要旨

・令和 3 年度実施報告

実施校・予定プログラム数、学校教育部研究開発事業との連携、年間の動き、事業推進に係る取組

・令和 4 年度実施方針案

現在の課題・実績を踏まえた検証、今後の事業の方向性

・札幌市におけるコミュニティ・スクールに関する情報提供

イ 主な意見・質疑応答

- ・実施拡大に向けた取組の中で、計画の周知や実施調査を行っているとのことだが、学校側の反応はどうか。もしかしたら、本来の理念が理解されないまま、難しいという内容で回答されているのではないか。（本間委員）

→来年度からの平日拡大について周知を行い、それを踏まえ、来年度サタデースクールを実施するか意向調査を行ったところ。回答は出揃っていないが、大半が難しいという返答。コロナ禍で、教育課程自体の見通しが立たない状況に加え、地域の方の参加が、学校の入校制限もあって厳しい状況に見えているかもしれない。（寺崎係長）

- ・コロナ禍で、現行のサタデースクールへの参加も足踏みしているなか、平日拡大という言葉のみをもって、マイナス面を感じているのかもしれない。学校は今頃、来年度の教育課程を考えている頃だと思うので、周知のタイミングとしては、とても良いと思う。学校はこの2年余り地域との連携事業がほとんどできていないと思うが、来年度こそは、少しでもできることはないかと思通しを持っている学校も多いと思う。それを生かすためには、何か新しいもの、拡大というイメージよりも、コロナ禍で出来なかった地域との様々な行事等を、サタデーの予算や運営協議会をつくることによって、学校の負担も少し減るといような前向きなスタンスでお知らせすることが必要に感じる。そうすることで、今まで出来なかったことや、コロナで難しかったことを、来年は少しでもやってみようかと考えることができるかもしれない。こういったプラスのアピールの仕方をしないと、負担がかかると思っている学校のマイナスな回答が多くなるのではないかなと思う。サタデースクール通信を活用した周知ということだが、これは学校からすれば、既に取り組んでいる活動の広報という感じで見えてしまっている。何かアピールの仕方を変えていかなければ難しいのかもしれない。また、コミュニティ・スクールの話も出ていたが、サタデースクールの拡大版をうまく活用することで、その土台づくりにもなるので、そういったところで学校にもプラスになると思わせないと、少し厳しいかもしれない。（本間委員）
- ・コミュニティ・スクールの取組状況について、東白石中学校区、定山溪中学校区で実践研究をやられているということなので、ぜひこちらをモデル地区

にするなど、前向きに取り組んでいただけたらと思う。それから、サタデー
スクール令和4年度実施方針案の運営協議会の体制について、今度は地域
の方々に代表者になっていただきながら取り組むということだが、これは結構
ハードルが高い気がする。地域との関係が十分できていない学校は、こう
いった人材を探すことから始めなければならないので、少し急な感じがして
いる。これが原因でやらないということにつながりかねない。簡単に考える
と、PTAの役員の方々にこの立場に立ってもらうのが一番手っ取り早い気
がするが、それもPTAの役員に負担をかけることになるので、躊躇される
ケースも出てくるだろう。こういうものこそコミュニティ・スクールがあれば、
誰にこういう立場に立ってもらうか、地域の方々の意見を聞きながら検
討できるのではないかなと改めて思った次第。その地域側の人たちをどう選
ぶか、何かイメージされているか。（出口委員）

→おっしゃるとおり地域人材の選考は難しいと認識。考えられることとして、
すでに学校と関わりのある、例えばPTA会長、役員、青少年育成委員、子
ども会の方、開放司書の方など、そういった地域の方から選んでいただく。
また、サタデースクール事業は、コーディネーターが肝の事業であるため、
人材発掘はもちろんこと、今後は人材育成も重要になってくると思ってい
る。私どもとしても、資質向上を目指して研修は行っているが、年2回、今
年は1回のみ研修となっており、数少ない研修ではなかなか、資質向上
や、コーディネーター間のつながりの構築、全て含めて網羅するのは難しい
というのが正直なところ。（寺崎係長）

- ・コーディネーターが自分の仲間を巻き込んでいく。口づてや人づてなどで巻
き込みながらこの体制づくりをする方法が有効だと感じた。そうやって多く
の人を巻き込んでいくことが、この事業が発展していくポイントだと思う。

（出口委員）

- ・新型コロナウイルス感染拡大以降、運営協議会との契約が随時契約になって
いるという話であったが、それ以前までは契約の期日はいつだったのか。

（中野委員）

→以前までは、5月からプログラムを始めているところもあり、年度当初にほ
ぼ一斉に契約をしていた。随時契約を入れたのは2年前。サタデースクール

事業はP T Aの方の協力が欠かせないが、5月のP T A総会で役員が入れ替わるため、新年度の役員体制が決まった段階で契約できるように変更した。また、コロナ禍で、入校制限の影響を受けて打合せができないところも増えており、これまでは新規校に限っていた随時契約を全ての学校に対象を広げ、体制が整った段階で契約できるようにした。（寺崎係長）

・ P T A組織の多くは5月に総会が行われる。それから各委員会がつくられるため、P T Aの行事は11月に増える。総会で役員交代があり、組織の始動は6月から7月頃なので、今やられている随時契約というやり方をぜひ続けていただきたい。また、現状のP T A組織の状況として、一昨年はほぼ何もできていない。去年は、委員会活動やバザーなどのイベントを見ると、約80%が動いていなかったという結果が出ている。一方で、役員会などの人と人が会わないで行えるP T A活動や、見守り活動等については80%が動いているという話が出ている。来年度以降に向けていろいろとやれることが増えるのではないかという印象を持っている。総会の現状をお話しすると、来年度は10区の区P連の総会と、市P協の総会については対面形式でやることで検討を進めているところ。総会にサタデースクールの広報に来ていただければ、全校のP T Aに対してアピールできるので、そこは私のほうからお願いしたいと思っている。（中野委員）

・ 私は子ども食堂を中心とした平日の子どもの居場所づくりをしている。令和4年度に平日拡大とのことだが、放課後の行事としてここに加わることはできるか。また、今ある地域資源を使うという意味では、例えば私自身がコーディネーターの研修を受けて、学校と連携しながら小中学生のつながりをつくっていくということが可能なのかと思った。コーディネーター研修は、年に1回とあるが、いつぐらいの時期に、何時間やるのか。コロナ禍なので、オンラインで研修を受けることは可能か。（安田委員）

→ コーディネーター研修については、現在実施している学校、運営協議会のメンバー、コーディネーターを対象に、ほかの学校の事例やプログラムの紹介、コーディネーター間の意見交換会などをやっている。現状では、サタデースクール事業に参加していない方の参加はできない仕組み。今年度の研修会については、令和4年度の事業変更について、学校にどのようなメリッ

トがあるか皆さんに知っていただくために、事業内容を詳しく説明する研修会を予定している。また、平日拡大時のプログラムに、子ども食堂が加わることができるかという話したが、コロナ禍で、今現在学校で実施できていない飲食を伴うプログラムを認めることは難しい状況。食事提供ではなく、例えば、食育等の学習支援は可能と考える。

- ・ 課外、学校外の活動は認められないか。サタデースクールが学校内の活動のみを認めるということであれば、子ども食堂が加わることは難しい。（安田委員）

→サタデースクールの活動場所は、基本的には学校を使うが、例えば社会教育施設「ちえりあ」や区民センター、場合によっては企業が活動場所になることもあり得る。運営協議会の一員になっていただければ、当然、子ども食堂を一つの活動場所として考えることができるし、一員にならなくとも、運営協議会が子ども食堂を会場とするプログラムを作ることも考えられる。（寺崎係長）

- ・ 近隣の学校ではサタデースクールを一切していない。そういった場合は、運営協議会を新たに立ち上げなければならないということか。（安田委員）

→実施校でない場合、新たな組織の立ち上げが必要。一般的な流れとしては、すでに学校と関わりのある団体に声かけをして、どなたかにコーディネーターを担っていただくということになるが、例えばそこに、子ども食堂が入り、安田さんにコーディネーターを担っていただくということもできる。コーディネーターは、皆さんがそれぞれ得意の分野で、自分の所属している団体のプログラムを企画することが多い。（寺崎係長）

(4) 報告事項

① 第3次札幌市生涯学習推進構想の令和2年度実施状況について

ア 事務局から資料2-1及び2-2を用いて説明（小柳係長）

以下説明要旨

- ・ 令和2年度実施報告について
- ・ 状況調査票について
- ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大への対応について

イ 主な意見・質疑応答

- ・基本施策の中に重点施策があるが、これはどのようにして選ばれたものか。

(高橋委員)

→3次構想は、2次構想の内容や結果を検証して作成したもの。2次構想を総括した結果、今後重要になりそうな内容から、三つの基本施策を定め、その中で重点的に進めていくべき分野を重点施策として統括したもの。本日は資料としてお配りしていないが、3次構想の第3章、23ページに重点施策を定めた経過や解説等が掲載されているので、後ほど御確認いただければと思う。(小柳係長)

(5) 事業説明

① 社会教育事業

事務局から資料 3-1 及び 3-1 を用いて説明 (寺崎係長)

以下説明要旨

ア 学校図書館地域開放事業

- ・事業概要
- ・実施状況、運営方法 等

→質疑応答なし

イ 家庭教育事業

- ・事業概要
- ・主な取組状況 (家庭教育学級、親育ち応援団事業) 等

→質疑応答なし

② 野外教育事業

事務局から資料 4-1、別紙 1, 2 及び 4-2 を用いて説明 (田村係長)

以下説明要旨

ア 林間学校事業

- ・事業概要
- ・主な取組状況 (オンラインコンテンツ、プログラム検証)
- ・林間学校の様子 (別紙 1)、冬の自然体験フェスの様子 (別紙 2)

→質疑応答なし

イ なかよしキャンプ事業

- ・事業概要

・主な取組状況

→質疑応答なし

(6) 全体を通して質疑応答

・本日の会議の中で、今、大変主流となっているSDGsに関する言葉が出てこなかったのが気になった。第3次札幌市生涯学習構想のもとで様々な事業展開がなされていることを理解したが、一方で、策定したときと比べて、時代の変化に従い新しい概念や事柄に対応しべき項目も多いと思う。そういった変化にどう対応して事業を精査していくのか非常に感じる部分があった。また、第3次札幌市生涯学習推進構想のなかで事業評価がなされているが、どの程度客観的に行われているのか非常に気になるところ。例えば、「おもてなし推進事業」とあるが、新型コロナウイルス感染症の影響で、予定していた行事が実施できなかったにも係わらず、どういった根拠で「○」の評価となるのか。感染症拡大の影響で行事の中止は避けられないことはしょうがないのだが、素人目に見て、本当に「○」という評価が正しいのか疑問に思ったところ。（臼井委員）

→事業評価については、各所管課における主観的な評価になっている。今後、事業や構想の見直しを進めていく中で、客観的な指標も含め、様々な観点から検証していきたい。次にSDGsなど最近主流のワードが出てきていないとのことだが、来年度、3次構想策定からちょうど中間の位置にさしかかっており、アンケート調査を実施する予定。その調査の中で、最近の時勢などを踏まえた項目を付け加えることを検討している。新しい概念などは、そういったところで拾った上で検討を進めていきたいと考えている。一方で、札幌市で策定中の次期まちづくり戦略ビジョンの中でも、SDGsを捉えた検討を進められているところ。ビジョンなどの検討内容も踏まえて、構想の進捗管理を進めていきたいと考えている。（小柳係長）

・時代の変化をどんどん取り入れて、柔軟に対応いただきたい。（臼井委員）

・野外教育事業について、先ほど動画なども拝見したが、子ども目線で、非常に楽しめるような内容になっていた。薪割りや防災の炊事など、楽しみながら防災などにも応用できる内容のため、非常に素晴らしいと思っている。コロナ禍だが、こういった工夫を凝らしながら、興味を抱かれる教育事業を進めていただきたい。（鈴木委員）

- ・今回は事業説明ということで、新しい委員の方もいて、構想の検証時期に差し掛かっているということもあるのだろうが、前回議論したテーマを全く取り扱わないのは不思議に感じた。テーマの議論だけが大事ではないが、報告を主体にすると、皆さんの意見が聞けなくなる。社会教育委員の皆さんは様々な見識があり、知恵もあるのだから、皆さんの意見を聞き反映するようなことを取り入れてはどうかと感じた。（高橋委員）

→本来であれば、昨年もう一度会議を開き、本日説明した事業を知ってもらう機会を設けることができたのだが、コロナ禍で難しい状況となった。また、3次構想やサタデースクールについては、毎年この時期に、評価検証という中で、皆様から御意見をいただいているところ。今年度は残り1回の会議を予定しており、その中で皆様からさまざまな御意見を頂戴する時間を設ける予定。また、3次構想は見直しの時期に入っており、来年度にはアンケート調査も行いながら、中間部分での評価を行わなければならない。そのアンケートの内容をどのようにするか、御意見を頂戴する機会が出てくるかもしれない。また札幌市では、次の10年を見据えたまちづくりの戦略ビジョンを策定しており、その中で、生涯学習や社会教育というのも非常に重要な位置づけをされてきているので、それに対しても御意見をいただきたいと考えている。（村上課長）

7 連絡事項

次回の会議は、事前にお送りした日程確認表を踏まえて、後日、連絡する。（逸見係長）